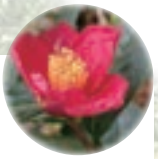
「全国トチノキ学ネットワーク（仮称）」準備会

「研究者」「住民」「行政」の三者の英知の結集をめざして
トチノキを愛する人たちによりまずはネットワークの準備会を発足します

基調講演

湯本貴和（前日本生態学会会長、京大名誉教授）
中静　透（森林研究・整備機構理事長、東北大学名誉教授）
吉田正人（筑波大学教授、前国際自然保護連合日本委員会会長）

日　程



1日目 10:00〜12:30

基調講演1「今、なぜトチノキネットワークなのか？」
湯本貴和（京大名誉教授）

基調講演2「日本の冷温帯落葉広葉林とトチノキ」
中静透（東北大学名誉教授）

基調講演3「国際的な自然保護との関係」
吉田正人（筑波大学教授）

トチノキ講演1「ネイチャーポジティブ時代のトチノキ林保全
―身近な自然保護をつなぐユネスコエコパークの可能性」
飯田義彦（筑波大学准教授）

トチノキ講演2「トチノミを利用した食文化
―その多様性と現代的な意義」
八塚春名（津田塾大学准教授）

個別発表者募集中
締め切り 5月8日（月） 厳守午後5時まで

14:00〜17:00　個別発表　各15分ずつ

応募用件：トチノキや奥山保全の科学、自然、人びととのかかわりに関する事なら何でも。応募資格は問いません。発表希望が多数の場合には、幹事会で時間調整をお願いする場合がありますことをご容赦ください。発表内容は、会報として活字本に編集します。

まとめ　ネットワークの今後の方向性について

18:00〜20:00　夕食・懇親会

2日目 9:00〜15:00

高時川源流部のトチノキの巨樹・ブナ林、ダム計画での離村地訪問　（おにぎり弁当付き）

2023年 5月20日㊏・21日㊐

場　所　森林文化交流センター
〒529-0515 滋賀県長浜市余呉町中之郷 ウッディパル余呉内

参加費　1日目 1,000円（昼食代込み）
※別途　懇親会4,000円　宿泊費4,000円
2日目 1,000円（ツアー保険、昼食代込み）

申し込み先　「全国トチノキ学ネットワーク」（仮）
滋賀県大津市京町2丁目4-23　TEL: 077-509-7206
E-mail : furuya.katsunobu@gmail.com
https://tochinology.jimdofree.com/

参加申込書

以下の内容をご記入のうえ、下記のQRコードまたは、メール、ファクス、郵送でお申込みください。

氏名　　年齢　　才　性別　男・女

住所 〒　　ー

電話（緊急時連絡可能な番号）　メールアドレス

所属組織（ある方）

お申し込み時にお送りいただいた個人情報は、今回の目的以外には使用いたしません。

参加申込用 QRコード

1日目
■個別発表会の発表希望　□あり　□なし
※「発表タイトル」と「趣旨：100文字」を別紙にてご応募ください。

■懇親会への参加希望　□あり　□なし
※4,000円。地元素材を中心に差し入れ歓迎。

■宿泊希望　□あり　□なし
※4,000円。（宿泊代、朝食）　※雑魚寝となります。

2日目
■エクスカーション参加希望　□あり　□なし
※約5時間の山歩きです。
※1,000円（ツアー保険、弁当代）

All Japan Tochinology Network

「全国トチノキ学ネットワーク」（仮称）について

英語名：All Japan Tochinology Network (JTN)

趣　旨

トチノキは、山あいの雪深い谷に根をはり、流水の音を傍らで聞きながら生育しています。縄文時代の遺構にもトチノミが残されているように、われわれの祖先の命を守る食料源でもありました。トチノミやトチ蜜といった食の恵みをもたらし、その材は木地物として生活用品にも活用されてきました。トチノキは自然生態系を構成する樹木でもあり、生活文化の源泉としての樹木でもあるという複合的で多様な価値を持ち合わせています。

しかし、トチノキと人とのつながりはここ数十年の人びとの暮らし方の変化にともない、わずかに残る糸のようにか細いものとなっています。トチノミを拾い、トチモチづくりに活用している地域は今でも存在していますが、トチノキと人とのつながりが今後の日本に息づいていくかどうかは今を生きる私たちの手にかかっています。

トチノキと人とのつながりの再生には、山村の暮らしを守ってきた人びとととともに、地域に根ざした研究者、自治体が相互に密接に連携して、それぞれの経験や知見を共有していくことが必要です。自然生態系も、生活文化も、高齢化社会も、次世代育成もすべてが連動しています。山村地域の可能性を総合的に考える思索を促し、学術的な知見も合わせていくことで、トチノキという樹木を通じて、多くの知恵を持ち寄り、学び合いを進めるネットワークづくりが今、期待されています。

2022年11月23日、滋賀県長浜市にて「トチノキサミット」が滋賀県自然環境保全課の呼びかけにより開催されました。ここで、トチノキと人とのつながりをつむぎ直すためには、源流地域の暮らしぶりを住民自らが語り、研究者や行政関係者も参集し交流し合える場が定期的に必要ではないかと提案されました。この提案を受けて、「研究者」「住民」「行政」の三者が結集できる「全国トチノキ学ネットワーク（仮称）」の設立を呼びかけます。

ネットワークづくりのねらい

1. 日本の奥山では巨大なトチノキが、ブナ等とともに水源保全を果たしています。
2. トチノキは水田稲作がはいる前、縄文時代から主食に活用されてきました。
3. トチ餅やトチ蜜などの食用以外にも、食器・家具などの生活に利用されてきました。
4. 山間部での過疎化がすすみトチノキと人びととの繋がりの再生が求められています。
5. 「研究者」「住民」「行政」が連携して、それぞれの経験や知見を共有し、次世代へつなぐネットワークづくりが今、求められています。